



## 巻頭言

# MDGs から SDGs へ、引き継がれた目標、 新たな目標

(公財)地球環境戦略研究機関 所長 森 秀行(左掲載写真)  
研究員 宮 澤 郁 穂

2015年9月にニューヨークで開催された国連「持続可能な開発サミット」で「Transforming Our World: 2030 Agenda for Sustainable Development (私たちの世界を転換する: 持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030アジェンダ))」が採択された。2000年に合意した「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)」が2015年末に期限を迎えるため、以降2030年までの15年間の世界共通目標として、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が正式に策定された。MDGsでは、極度の貧困と飢餓の撲滅をはじめとする8つの目標が掲げられ、先進国が途上国を支援することを基本とていたが、SDGsは開発課題と環境問題により統合的に対応し、持続可能な発展の実現に向けて途上国と先進国双方を対象とする、初めての世界共通アジェンダである。

このような合意に至った背景には、MDGsで一定の成果は得られたものの、未達成の目標が残り、急速な経済発展による情勢変化等による環境破壊が顕在化し、MDGsで対応しきれない問題への対応やより広範な目標設定が必要となったこと、また、保健と環境問題やエネルギーと水など、持続可能な開発に関する多くの課題の相互関係性が着目され、より統合的な対応が必要になったことがある。一方で、技術革新や科学の発展、官民パートナーシップの活躍など多くの新たな機会が生み出され、従来の途上国支援型の開発モデルではなく、多様な関係者が参加するマルチ・ステークホルダーによる意思決定や実施の在り方が増えてきたこともSDGsの合意に至った背景であり、その一つの特徴でもある。

### 引き継がれた目標、新たな目標

では、2012年のリオ+20以降、約3年間の長い交渉プロセスを経て合意されたSDGsはどういったものなのか。SDGsには、17の開発目標と169のターゲットがあり、これに付随する指標も2016年3月に策定される。第一にあらゆる貧困の撲滅を掲げており、そのためには教育や保健など基本的な社会ニーズへのアクセスの確保や経済成長や雇用機会の創出が必要であり、最終的に豊かな暮らしの確立を目指し、また

経済の発展に伴う課題として気候変動、エネルギーや自然災害等にも言及し、バランスのとれた持続可能な社会を目指すというかなり包括的な目標群になっている。

その中でも、MDGsの実施においては、10億人以上の人々が極度の貧困から脱却し、また、乳児死亡率が減少し、就学率が大幅に向上したといった成果もあった。一方で、いまだに約8億人が極度の貧困の中で生活し、最貧困層家庭の幼児死亡率は最富裕層家庭の子供に比べて2倍高いことが課題として残っている。また、気候変動対策の最重要課題の一つであるCO2排出量の削減は依然として未達成であり、現在世界的な排出量は1990年に比べて50%以上も増加している。都市部と農村部でも安全な飲料水と衛生施設の利用率はともに改善された一方、農村部に住む貧困層や社会的弱者はこれらの基本的なニーズにアクセスすることが困難な状況である。MDG8で掲げられていたODAの0.7%目標も、2014年統計で達成できた国は、デンマーク、ルクセンブルグ、ノルウェー、スウェーデン、イギリスの5カ国のみであった。こうしたMDGsで多く課題が残った目標や分野については、SDGsでも引き継がれた。

ではどのような目標が新たに追加されたのか。表1では、MDGsの8つの目標とSDGsの17目標を簡潔ながら比較した。ここから、(i)SDGs1-5は、基本的にMDGsを引き継いだものであること、(ii)MDG7に対応する広い意味での資源環境問題に関連した目標が、エネルギー、持続可能なまちづくり、気候変動対策、持続可能な消費と生産、海洋・陸上資源の確保など、大幅に拡充されたこと、(iii)MDG8が実施手段(MOI)としてそれぞれのSDGsに対応して記述されているのに加え、SDG17としてより詳細に規定されたこと、などが読み取れる。

また、興味深いのは、SDGsの目標とターゲットにおける優先分野の比較である。Kate Raworthという元オックスファム職員が、地球環境資源の限界(プラネタリーバウンダリー)を見据えた、人間の社会経済活動について整理したイメージが以下のドーナツ型枠組みである(図1)。これによると、SDGsの17目標

表1: MDGs と SDGs の比較

MDGs (2000-2015)	SDGs (2016-2030)	
目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅	目標1: 貧困をなくす	目標10: 格差の是正
目標2: 初等教育の完全普及の達成	目標2: 飢餓をなくす	目標11: 持続可能なまちづくり
目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上	目標3: 健康と福祉	目標12: 持続可能な消費と生産
目標4: 乳幼児死亡率の削減	目標4: 質の高い教育	目標13: 気候変動へのアクション
目標5: 妊産婦の健康の改善	目標5: ジェンダー平等	目標14: 海洋資源
目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止	目標6: きれいな水と衛生	目標15: 陸上の資源
目標7: 環境の持続可能性確保	目標7: 誰もが使えるクリーンエネルギー	目標16: 平和、正義、有効な制度
目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進	目標8: ディセント・ワークと経済成長	目標17: 目標達成に向けたパートナーシップ
	目標9: 産業、技術革新、社会基盤	

出典: 筆者作成。

のうち、主に単独目標として掲げられているものは、貧困削減や所得、水、食糧、雇用など、社会経済活動に関する分野が多いことがわかる。一方、地球環境に関する分野は、上記のように拡充はされたものの、未だ残された地球環境課題もあることを示唆している。

SDGs の評価、実施に向けて

持続可能な発展 (SD) は、1992 年のリオ会議以降、国際的な場のイシューとなったが、概念が抽象的で、必ずしも効果的な実施は実現しなかったことを受け、リオ+20 で SDGs を作成し、時間を切った定量的な目標を少数選定し、実施に向けた世界的なイニシアチブにしようとしたことは評価に値する。しかしながら、17 目標、169 ターゲットもあり、時間を切った定量的な目標とならなかったものも多数あり、当初構想されていたものとは、必ずしも一致していない。例えば、

環境関連目標・ターゲット、また、主に先進国を対象とする目標・ターゲット (持続可能な消費と生産: SCP、実施手段等) においては、先進国・途上国間の対立の結果、具体的な定量目標ではなく、「substantially」という文言を使うことで合意に至った。こうした結果から、結局、最終合意された SDGs は国際交渉の「妥協の産物」、「途上国向け」といった意見も多数ある。

また、2016年3月には、SDGs 実施をモニタリングするための国際指標が策定される。MDGs の教訓から、定量的、かつ、分かりやすい指標を設定し、国際 (及び地域)、国内レベルでのモニタリング評価枠組みを設置することがまずは必要である。SDGs の達成度を定期的に報告し、評価し、フィードバックしていくプロセスは、各国における実施を把握し、また、持続的に実施していくために必要である。指標を測るためのデータの確保も重要である。特に途上国では、データ収集・管理能力などが課題となっているため、これに関する国際的な支援も必要になる。

評価枠組みを設置することがまずは必要である。SDGs の達成度を定期的に報告し、評価し、フィードバックしていくプロセスは、各国における実施を把握し、また、持続的に実施していくために必要である。指標を測るためのデータの確保も重要である。特に途上国では、データ収集・管理能力などが課題となっているため、これに関する国際的な支援も必要になる。

世界の動き

SDGs の実施に向けて、多くのアクターが動き出している。国連では、2016 年からの実施に向けて、Partnerships Engagement for the Sustainable Development Goals という、あらゆるアクターが自主的イニシアチブを登録し情報共有を図るためのオンライン・プラットフォームの設置を準備中である。また、2016年3月の策定に向けて、指標の議論も専門家会合を通じて進んでいる。

先進国では、欧州連合 (EU) 加盟国や北欧諸国を中心に、動きが活発である。例えば、フランスは、2015~2018 年間に気候変動対策と SDGs 実施を推進するためのパートナーシップ枠組み合意を UNDP と締結し、SDGs 実施のために 40 億ユーロの追加的支援を約束している。ドイツでは、連邦首相府が SDGs の国内実施を管轄し、2016 年に発表予定の国家持続可能な開発戦略 (NSDS) 進捗報告書において、2030 アジェンダのための目標と指標を組み込む予定である。EU でも、SDGs 実施のためのチーフアドバイザーを設置するなど、地域レベルでの議論も進んでいる。フィンランドでは、政府、企業、研究機関、都市、NGO 等

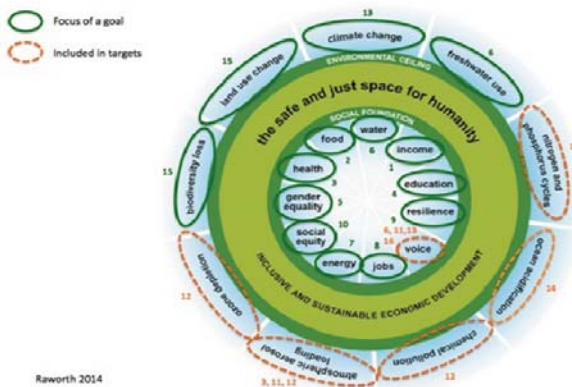


図1: ドーナツ型フレームワーク

の様々なアクターが参加し、地蔵可能な発展に関する自らの行動についてのコミットメントを表明する場を設け、既存の取組の改善やパートナーシップ組織同士の共同、経験の共有などに役立てられている。特に先進国における SDGs 実施については、1) 国内の実施、2) 開発協力への貢献、及び、3) 国際課題への対応の3点が重要な要素となる<sup>3</sup>。

一方、アジア諸国、特に ASEAN 加盟国では、省庁間の調整を担う省庁が SDGs 実施窓口となり、国家計画等への導入作業の準備を開始している。特に、インドネシア、タイは関心（特に、持続可能な消費と生産分野等）が高く、実施の準備状況の進捗も他国に比べて進んでいる。ASEAN レベルでも都市協力を中心に、地域レベルにおける SDGs の実施に向けた議論が進んでいる。国連環境計画アジア太平洋事務所 (UNEP-ROAP) が、国連開発計画 (UNDP) とともに、SDGs Readiness Initiative を実施している（主な対象国はモンゴル、タイ、インドネシアなど）。SDGs 実施のためには、ベースラインデータが必要との認識で、そのような作業から始めている。

データやモニタリング枠組みについては、国際的に、アラブ首長国連邦主導の Abu Dhabi Global Environmental Data Initiative (AGEDI) が UNEP などと連携して、SDGs 実施のためのデータに関する会議 Eye on Earth Summit 2015 を先行開催 (<https://agedi.org/>) しており、今後の動きが着目される。

また、2015 年 9 月に、国連グローバル・コンパクト (UNGC) は、持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD)、グローバル・レポーティング・イニシアチブ (GRI) より共同で、SDGs 実施における企業の役割について記載した、「SDG コンパス」という指針を発表し、オンラインベースで世界の企業の取り組みを紹介するプラットフォームを築いた。SDGs を、企業戦略、ゴール、活動などを立案し、運用し、周知し、報告する上で、それら全体を包括するフレームワークとして利用することにより、市場拡大や雇用改善の好機につなげることが可能であると提唱しており、自社の企業戦略においても意欲度の高い、かつ、「科学に基づく (アウトサイド・イン・アプローチ)」目標の設定が重要であるとしている。

日本国内では、SDGs で取り上げられている多様な問題に包括的に対応し、活発な議論を促進するためのマルチ・ステークホルダーのプラットフォームとして、Sustainable Development Solutions Network Japan が

2015 年 7 月に IGES・国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 主催「第 7 回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム (ISAP2015)」で正式に発足し、今後活動を進めていく予定である。

国や地域、また、企業や市民社会などで SDGs をどう実施していくかという議論が始まりつつあるのは確かである。しかし、これをすべてのステークホルダーを巻き込んで、定期的なモニタリングやレビューも含め、本格的に実施していくためには、多くの課題が残っている。

## 結論

世界が SDGs の合意に費やした努力を無駄にしないためにも、今後は、SDGs 実施の進捗を図るための指標、データ収集・分析やモニタリング枠組みをしっかりと構築し、各国政府はもちろん、国際機関や自治体、民間企業、NPO など主要なアクターが、それぞれの状況を勘案して実施に向けた具体的な目標を設定し、着実に実施していくことが重要である。

「The Economist」<sup>4</sup>によると、SDGs の実施に必要な資金量は、世界の年間 GDP の 4% に相当しており、この資金ニーズを公的な資金のみで充当することは不可能であり、民間からの資金が大きな役割を果たすことは明確である。途上国への直接投資を含め、民間セクターによる資金量には膨大なものがあるが、SDGs の導入に伴い、その資金の使われ方が大きな焦点である。来年、日本で開催予定の G7 サミット及びその機会に開催される G7 環境大臣会合 (5 月、富山) でもこの 2030 年アジェンダ・SDGs が一つの焦点になると予想される。今後の動向に注目していきたい。

## 参考文献

- 外務省・IGES (仮訳)、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>
- Eye on Earth. 2015. Outcome of Eye on Earth Summit 2015. Abu Dhabi, United Arab Emirates. 11 October 2015.
- Kate Raworth. 2014. Living within the Doughnut's Layers. The Wired World.
- Stockholm Environment Institute (SEI), Sustainable Development Goals for Sweden: Insights on Setting a National Agenda, October 2015.
- The Economist, 2015 年 3 月 28 日付け、「The 169 commandments」.
- UNDP. 2015. The Millennium Development Goals Report 2015. New York: United Nations.

<sup>3</sup> Stockholm Environment Institute, 「Sustainable Development Goals for Sweden: Insights on Setting a National Agenda」 (2015 年 10 月)

<sup>4</sup> The Economist, 2015 年 3 月 28 日付け、「The 169 commandments」。